

令和8年度「健やかな体」育成プログラム

学校番号：27511

学校名：前田中央小学校

	令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 結果		分析
体力・運動能力 <男子>	○全国平均と同程度もしくは上回った種目 握力、反復横跳び、ソフトボール投げ	○全国平均より下回った種目 上体起こし、50m走、長座体前屈 20mシャトルラン、立ち幅跳び	全国平均より顕著に低い能力は、筋パワー・筋持久力、柔軟性、跳躍能力だった。休み時間に体を動かして遊ぶ姿は割合多く見られる学年だが、多少の負荷がある運動が運動能力向上につながると思われる。
体力・運動能力 <女子>	○前回の記録と同程度もしくは上回った種目 握力、上体起こし ソフトボール投げ、立ち幅跳び	○前回の記録と同程度もしくは下回った種目 50m走、20mシャトルラン 長座体前屈、反復横跳び、	全国平均を下回ってはいるが、大きなポイント差がついた種目はなかった。女子は「運動やスポーツが好きか」という問いについても、全国・平均を上回っているため、日常的な運動習慣が身に付けば、改善しうるのである。
運動・スポーツへの意識、運動習慣	「体育の授業は楽しい？」が「楽しい」と回答 本校 男子 74.2% 女子 50.0% 全国 男子 73.7% 女子 56.9%	「運動やスポーツをすること」が「好き」と回答 本校 男子 69.7% 女子 57.1% 全国 男子 72.7% 女子 54.1%	男子は体育の授業を楽しめている。女子はその層が少ない。が、運動やスポーツそのものは好きなのである。授業では、女子も楽しめるような活動に焦点をあてるとよいのかもしれない。

三つの取組

①体育・保健体育等の授業の充実

②授業以外で子どもの運動機会を創出する取組

③子どもが自ら健康の保持増進を図る取組

具体的な取組

運動の楽しみや喜びを
各学年で単元の構成を工夫し、運動に積極的に取り組む子どもの育成を目指す。

課題探究的な学習の推進
子どもに納得感のある課題設定を行うことによって、目指す目標が明確な授業の構成を目指す。
それが、振り返りの際の指標にもなることで、成長を実感したり、次の目標を意識できるような指導を目指す。（「分かる」「できる」を体育の授業へ。）

時間・空間・仲間の創出
「きらめきウィーク」
教師と子どもが健康や運動について考え実践する一週間。原則毎月実施。

- ・ きらめきウォーク
全校お散歩デイ。運動への抵抗感を下げ、継続を目指す取組。運動に消極的な児童も「散歩も運動なんだ！」と前向きに、体を動かす楽しさを味わい、光を浴びる心地よさを感じることをねらう。

- ・ 休み時間の運動推進プロジェクト
担当教諭や委員会児童が中心となって運動したくなる空間づくりを行う。

給食元気チャージマン

子どもたちがもりもり給食を食べること、担任の先生の給食指導の追い風になることを目指して、月に1回、企画や動画配信を行う。

休み時間の外遊び・体育館遊びの見直し

環境整備、割当の調整等を行うことで、児童が運動遊びに向かうまでの障壁を減らすことを目指す。
クラス遊びや係活動など、学級活動においても利用しやすさが生まれるように配慮する。

食育教育の充実

全校で食育の教育計画を立て、子どもたちの「食」の改善を図る。

家庭・地域との連携・協働

- ・「健やかな体」の育成に関わる学校の取組をお便りやホームページ等で発信する。
- ・家庭と連携して、健康や運動に関心をもてるような活動を設定する。
- ・運動の楽しさを実感したり、健康意識を高めたりするために、出前授業等を設定し、教育効果を高める。

